様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	龍谷大学
設置者名	学校法人龍谷大学

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	真宗学科	夜・通信		44		44	13	
	仏教学科	夜・通信				44	13	
	哲学科	夜・通信				44	13	
	臨床心理学科	夜・通信				44	13	
	歴史学科	夜・通信				44	13	
	日本語日本文学科	夜・通信				44	13	
	英語英米文学科	夜・通信				44	13	
経済学部	現代経済学科	夜・通信			26	26	13	
	国際経済学科	夜・通信			26	26	13	
経営学部	経営学科	夜・通信			14	14	13	
法学部	法律学科	夜・通信			26	26	13	
理工学部	数理情報学科	夜・通信		10	4	14	13	
	電子情報学科	夜・通信			13	23	13	
	機械システム工学科	夜・通信			19	29	13	
	物質化学科	夜・通信			8	18	13	

	情報メディア学科	夜・通信			10	20	13	
	環境ソリューション工学科	夜・通信			8	18	13	
社会学部	社会学科	夜・通信		28		28	13	
	コミュニティマネジメント学科	夜・通信				28	13	
	政策学部 現代福祉学科	夜・通信				28	13	
政策学部	政策学科	夜・通信			26	26	13	
国際学部	国際文化学科	夜・通信		6	24	30	13	
	農学部 グローバルスタディーズ学科	夜・通信			10	16	13	
農学部	植物生命科学科	夜・通信		12	6	18	13	
	資源生物科学科	夜・通信			6	18	13	
	食品栄養学科	夜・通信			4	16	13	
	食料農業システム学科	夜・通信			4	16	13	
先端理工学部	数理・情報科学課程	夜・通信		25	2	27	13	
	知能情報メディア課程	夜・通信			12	37	13	
	電子情報通信課程	夜・通信			12	37	13	
	機械工学・ロボティクス　課程	夜・通信			4	29	13	
	応用化学課程	夜・通信			5	30	13	
	環境生態工学課程	夜・通信			2	27	13	

2．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページにて公表
https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/jitsumu/

3．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	龍谷大学
設置者名	学校法人龍谷大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

龍谷大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office_list_01.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	浄土真宗本願寺派宗会議員	2020.12.22 ～ 2024.12.21	「建学の精神」を踏まえた組織運営体制へのチェック機能と経営計画の策定
非常勤	僧侶	2020.12.22 ～ 2024.12.21	「建学の精神」を踏まえた組織運営体制へのチェック機能と経営計画の策定
非常勤	議員	2020.12.22 ～ 2024.12.21	「文教政策等の諸施策」を踏まえた組織運営体制へのチェック機能と経営計画の策定
非常勤	株式会社従業員	2020.12.22 ～ 2024.12.21	「企業運営の観点」を踏まえた組織運営体制へのチェック機能と経営計画の策定
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	龍谷大学
設置者名	学校法人龍谷大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 本学で開講されるすべての講義について、授業計画書（シラバス）を作成し、公表している。授業計画書（シラバス）の作成にあたっては、教員に「シラバス作成の手引き」を提示し、授業計画書（シラバス）の目的や役割を説明している。また手引きでは、授業計画書（シラバス）に記載する到達目標や講義方法、成績評価の方法等の各項目について記載方法や記載例を示して説明を行っており、各教員は手引きに基づき授業計画書（シラバス）の作成を行っている。 また、授業計画書（シラバス）については、以下のスケジュールで作成し、大学ホームページにて公表している。 ・11 月　「シラバス作成の手引き」の提示 ・12 月下旬　授業担当者へ授業計画書（シラバス）作成依頼 ・12 月下旬～3 月中旬　授業計画書（シラバス）の作成 ・3 月中旬　授業計画書（シラバス）の公表	
授業計画書の公表方法	大学ホームページにて公表 https://capella.ws.ryukoku.ac.jp/RSW/CNoSSO.do
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

すべての学部において、以下の成績評価方法と成績評価の基準を履修要項にて示した上で、授業科目における学修成果の評価を厳格かつ適正に行っている。

１．成績評価の方法

成績評価には、主に次の 4 種類の方法で行っており、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価している。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められており、その内容はシラバスに明示している。

① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

２．成績評価の基準

① 成績評価は、100 点を満点とし、60 点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とする。

② 一度合格点を得た科目（＝既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできない。

③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は 0 点とする。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合がある。

④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりである。

＜段階評価と評点＞
Ｓ(90～100 点)　Ａ(80～89 点)　Ｂ(70～79 点)　Ｃ(60～69 点)
※上記の段階評価以外に、実習科目はＧ（合格）・Ｄ（不合格）で評価する場合がある。単位認定された科目の場合はＮ（認定）となる。

⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しない。

⑥ 学業成績表は、第 1 学期（前期）分を 9 月中旬、第 2 学期（後期）分を 3 月下旬に配付する。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

すべての学部において、成績評価の客観的な指標として GPA を採用している。GPA を活用することで、客観的な数値に基づいて学修成果を測定し、学生に適切な学修指導に役立てている。

各教科の評価点（100 点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出しており、算出方法については履修要項で示している。

評価点	グレイドポイント
100～90 点	4
89～80 点	3
79～70 点	2
69～60 点	1
59 点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\Sigma\ (\text{登録科目のグレイドポイント} \times \text{単位数})}{\Sigma\ (\text{登録科目の単位数})}$$

客観的な指標の算出方法の公表方法	すべての学部の履修要項に記載 https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/rishu.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

本学において、学部・研究科の「教育理念・目的」と３つの方針策定の基本方針を次のとおり定めている。

「龍谷大学の教育理念・目的を実現するために設置された学部・研究科は、広く社会に貢献できる教養教育・専門教育及びより高度な専門教育・研究を体系的かつ組織的に行うにあたり、各学問分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえた教育理念・目的を掲げ、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を一体的に策定する。」

この基本方針にもとづき、全学教学政策会議において、学長のリーダーシップのもと、卒業認定・学位授与の方針を定め、学生に保証する基本的な資質・能力や学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を定めて適切に実施している。

また、卒業認定・学位授与の方針は、履修要項に記載して、学生、教職員に周知するとともに大学ホームページを通じて、ステークホルダー等に幅広く公表している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	龍谷大学
設置者名	学校法人龍谷大学

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html
収支計算書又は損益計算書	大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html
財産目録	大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html
事業報告書	大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html
監事による監査報告（書）	大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_02.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：事業計画　　対象年度：2021 年度　）
公表方法：大学ホームページにて公表 （https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/bizplan/p_2021.html）
中長期計画（名称：龍谷大学基本構想 400　　対象年度：2020 年度～2039 年　）
公表方法：大学ホームページにて公表 （https://www.ryukoku.ac.jp/400plan/）

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/evaluation/evaluation.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：直近で行った「認証評価の結果」、「点検・評価報告書」及び「基礎データ」等を大学ホームページにて公開している。 https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/accreditation.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　文学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）
（概要） **【文学部の教育理念・目的】** 建学の精神に基づいて、人文学の知的体系の研究・教授を通じ、現代社会の複雑な変化や諸問題に、自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ、社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人間を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）
（概要） **【卒業認定・学位授与の方針［学士（文学）］】** 文学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生に保証する基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方針を次に掲げる。 **文学部の学生に保証する基本的な資質・能力** ①建学の精神の具現化 ・建学の精神の意義について理解している。 ②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得 ・人間社会において「言語（ことば）」の持つ影響力について深く理解し、人文学の幅広い知識を身につけている。 ・日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝達するための方法を身につけている。 ・外国語運用能力や豊かな教養を身につけている。 ③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上 ・他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけている。 ・自らが設定した課題について、探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を多角的に身につけている。 ・論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。 ④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上 ・多様な価値観を認め、言語（ことば）の学修をはじめとした学びを通じて自己の認識を広げ、異なる価値観を受容することができる。

・他者との交流や異なる価値の受容を通じて、自己を客観視し、他者と協働することができる。
・社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身につけている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に４年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を必要とする。
3. 卒業年次には、「卒業論文」を提出しなければならない。卒業論文提出後に口述試問を実施し、複数の教員によって厳格な評価を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

文学部では、卒業時に「教育理念・目的」や、「卒業認定・学位授与の方針」に明示した「学生に保証する基本的な資質･能力」を確実に身につけられるように確かなカリキュラムを編成している。具体的には以下の方針に基づく。

文学部の教育内容

①建学の精神の具現化

・建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
・人文学に関する知識・技能を身につけるために「普通講義」を開講する。
・大学での学びの基本的方法や、日本語の文章作成のための能力を育成するために「基礎演習」（１・２年次）を配置する。
・学生が自主的に設定した学修テーマを追究し、問題解決へと至る知識と技能を養成するために、「演習Ⅰ」（３年次）および「演習Ⅱ」（４年次）を開講する。
・文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を２年次以降に開講する。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。
・学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表やレポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」（３年次）および「演習Ⅱ」（４年次）を開講する。また、これらの活動を通じて思考力・判断力・表現力を伸張するために「卒業論文」を必修とする。
・批判的能力やものごとの本質を見極める力を養成するために「基礎演習」「演習」科目を全学年で設置し、「普通講義」等で学んだ知識を現実の社会で活用できる能力を養成する。
・人文学の専門領域の研究を通じて見いだされた知見をもとに思考力・判断力・表現力を高めるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を３年次から開講する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」） の発展・向上
・学生同士がディスカッションを行う中で、知識を構成していけるように、４年間を通じて開講される「基礎演習」「演習」では少人数のクラス編成を行い、TA、学修支援員のサポートによって学生同士が共に学ぶことの意味を探究させられるようにする。
・学科専攻の枠を超えた科目履修によって人文学の多様な専門領域を学ぶ学生が共に学べるように選択科目を設定する。
・社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

教育方法
・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価
・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。
① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
・卒業論文の評価は、論文評価と口述試問評価によって行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）
【入学者受入れの方針】

文学部では、建学の精神に基づいて、人文学の知的体系の研究・教授を通じ、現代社会の複雑な変化や諸問題に、自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ、社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人の育成を目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

1）文学部の教育理念や目的を十分に理解している人
2）明確な目的意識と学修意欲とを持った人
3）人文学の基盤となる「言葉」に対する鋭い感覚と正しい理解、そして豊かな運用能力のさらなる向上をめざして努力することのできる人

ついては、高等学校等での学習では、直接「言葉」に関する教科である「国語」、「英語（外国語）」を中心としつつ、志望する学科・専攻での専門的な学修に必要な基礎的学力を養いうる教科についても幅広く学んでおくことを望みます。

学部等名　経済学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）
（概要） **【経済学部の教育理念・目的】** 建学の精神に基づいて、経済学が培ってきた基礎的理論や社会の経済的諸現象を論理的に分析する能力を修得し、さらに国際的･地域的な多様性を理解して、課題の発見と解決に努める人間を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）
（概要） **【卒業認定・学位授与の方針［学士（経済学）］】** 経済学部の「教育理念・目的」を達成するために、すべての学生一人ひとりに必要と考えられる培うべき基本的な資質・能力は、次の通りである。 **経済学部の学生に保証する基本的な資質・能力** **〇教養教育科目により保証する資質・能力　●専攻科目により保証する資質・能力** ①建学の精神の具現化 〇建学の精神の意義について理解している ②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得 〇外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 〇諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●経済学（およびその周辺科学）の理論を理解し、言語や情報機器を含めて、質的・量的な分析スキルを身につけている。 ③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。
○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
●経済学の論理的な分析に基づいて、具体的な政策を立案し、様々な方法で表現・発表できる。
●国際的・地域的な多様性を理解する。

④ 主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上
●周囲と協力しながらも、常に主体的に課題の発見と解決に努める。
●社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身につけている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に４年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、３年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を必要とする。
3. 学部共通コース所属学生は、所属コースの修了要件を満たすこと。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

経済学部の「教育理念・目的」「 卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

経済学部の教育内容
○教養教育科目にかかる教育内容　●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化
○建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得
○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
●「経済学の基礎Ⅰ/Ⅱ」をはじめとする基礎科目を 1 年次および 2 年次前期に

開講することで、経済学（およびその周辺科学）の基礎的な知識・技能を学生生活の早い段階で身につけ、2年次後期以降のより進んだ学習に備える。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●全員履修科目「入門演習」「基礎演習Ⅰ/Ⅱ」などで、表現力や思考力の向上に努める。

●両学科に10のプログラム科目群を開設することで、系統的により深く経済学を学び、理論の応用や政策の立案に必要な思考力・判断力を身につけるとともに、国際的・地域的な多様性について理解する。

●コミュニケーション能力育成科目を開設し、英語による表現力の向上に努める。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●1年次から4年次にいたるまで、少人数・双方向教育による演習系科目を開講し、主体性と協働性を身につける。

●現場参画型・実習型の科目を開講することで、国際的・地域的な多様性について理解を深め、その上で主体的に課題を発見し解決に努める資質を養う。

●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

教育方法

・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。

・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。

① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【入学者受入れの方針】

経済学部では、建学の精神に基づいて、経済学が培ってきた基礎的理論や社会の経済的諸現象を論理的に分析する能力を修得し、さらに国際的・地域的な多様性を理解して、課題の発見と解決に努める人間の育成を目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

・入学後の学修に必要となる基礎的な学力を身につけている人
・社会や経済の様々な問題に関心を持ち、主体的に学修できる人
・物事を多角的に把握し、その上で論理的に考察する力を持つ人

ついては、高等学校等での学習では、英語・国語・数学・地理歴史・公民など幅広く学び、社会や経済の出来事にも興味や関心を持つようになることを望みます。

学部等名　経営学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【経営学部の教育理念・目的】

建学の精神に基づいて、経営学の理論を修得させることに加えて、実践的かつ実学的素養を身につけさせることを教育理念とする。また、激しい時代の変化に対応でき、社会から信頼される経営人を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【卒業認定・学位授与の方針［学士（経営学）］】

経営学部の「教育理念・目的」を達成するために、すべての学生一人ひとりに必要と考えられる培うべき基本的な資質・能力は、次の通りである。

経営学部の学生に保証する基本的な資質・能力

①建学の精神の具現化

・建学の精神の意義について理解している。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。
・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。
・幅広く社会全体を見渡す視野を持ち、現代社会において何が問題であるかを認識する力を身につけている。
・知的情報の受信、選択、分析、発信を基本とするコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向

けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。
・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
・幅広い分野の知識・理解をもとに、論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。
・学修した専門領域での知識を基にして現代企業の特徴や、経営の諸問題を説明することができる。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

・自分の考えを文章に表現し、討議することができる。
・自律的に学修し続ける態度を身につけている。
・他者との交流や異なる価値の受容を通じて、偏った見方を解放し、他者との協働により自己を客観視することができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に 4 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3 年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の 125 単位以上の単位数を必要とする。
3. 学部共通コース所属学生は、所属コースの修了条件を満たすこと。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

経営学部の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学修環境・支援体制を整備する。

経営学部の教育内容

①建学の精神の具現化

・建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。

・大学で学ぶことの意味を考え、討議の仕方やレポートの書き方などの基本的な技能を身につけるために、１年次の第１セメスターに全員履修科目「フレッシャーズゼミ」を開講する。
・ワープロ、表計算など、プレゼンテーションの基本的スキルを身につけるために、１年次に必修科目として「情報リテラシー」を開講する。
・専攻科目を１年次から配置して、経営学や会計学に対する知的好奇心や関心を持てるように、基礎から専門科目へと段階的・系統的に科目を配置し、体系的なカリキュラムを展開する。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。
・学生の将来の進路を想定し、また、学生の関心に沿った学修をより深く行わせるため、経営コースと会計コースの２コース制を２年次第４セメスターより採用する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」） の発展・向上

・学生の習熟度に応じて勉学に関心をもたせるため、全学年を通して少人数・双方向の演習を開講することで、主体性と協働性を身につける。
・理論教育だけでなく、ビジネスの現場で学ぶ実習教育を重視し、プログラム科目を展開する。

教育方法

・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。
①筆答試験による評価
②レポート試験による評価
③実技試験による評価
④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【入学者受入れの方針】

経営学部では、学生のそれぞれの学修目標にあわせて、少人数の演習学修と、理論と実践を組み合わせたカリキュラムを提供することによって、変化の激しい時代に対応でき、社会から信頼される経営人（働くことを通して社会に貢献する人材）を育成することを目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

1）明確な目的意識と学修意欲をもった人
2）さまざまな場面で基本的な能力として求められるコミュニケーション能力をもった人
3）知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む人

ついては、高等学校等での学習では、国語や外国語の習得によりコミュニケーション能力を磨き、また社会科科目の幅広い習得により知的好奇心を高めることを望みます。

学部等名　法学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）
（概要） **【法学部の教育理念・目的】** 建学の精神に基づいて、日本国憲法の理念を基礎に、法学と政治学の教育・研究を通じて、広い教養と専門的な知識をもって主体的に行動し、鋭い人権感覚と正義感のもとに自ら発見した問題を社会と連携して解決できる、自立的な市民を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）
（概要） **【卒業認定・学位授与の方針［学士（法学）］】** 法学部の「教育理念・目的」に基づき、以下の基本的な資質・能力を備えるに至った学生に学士（法学）の学位を授与する。 **法学部の学生に保証する基本的な資質・能力** **〇教養教育科目により保証する資質・能力　●専攻科目により保証する資質・能力** ①建学の精神の具現化 〇建学の精神の意義について理解している。 ●建学の精神と日本国憲法の理念に基づき豊かな人間性と鋭い人権感覚を身につけた自律的な市民となる。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

●法学・政治学に関する専門的な知識を身につけ、それらを基礎に現代社会が抱えるさまざまな矛盾に対して問題意識をもつことができる。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。

●自ら発見した問題を法学・政治学的に分析し、自身の考えに基づいて解決策を提示することができる。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●主体的に学び続けるとともに、他者との交流や異なる価値の受容を通じて自己を客観視することができる。

●社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身につけている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に 4 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を必要とする。
3. 学部共通コース所属学生は、所属コースの修了要件を満たすこと

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

法学部の「教育理念・目的」「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるよう学習環境・支援体制を整備する。

法学部の教育内容

○教養教育科目にかかる教育内容　●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

●建学の精神に基づく豊かな人間性と鋭い人権感覚を備えた自律的な市民を育むために、法学・政治学の科目を開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。

●法学・政治学に関する専門的な知識を身につけ、現代社会が抱えるさまざまな問題を認識できるようにするために、第１セメスターから第３セメスターに「履修指導科目」および「基礎的演習科目」を配置する。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●自ら発見した問題を法学・政治学的に分析し、その解決策を提示できるようにするために、第３セメスターから段階的・系統的に学べるよう法学・政治学の科目を配置するとともに、第４セメスターからはコース制をとり、併せて少人数で実施する専門的な演習を開講する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●他者との交流や異なる価値の受容を通じて、自己を客観視できるようにするために、第４セメスター以降に、実習プログラムを含む科目、アクティブ・ラーニング科目、実習科目、大学院との合同開講科目、学外他機関との単位互換科目等、多様な学びを可能にする諸科目を配置する。

●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するために、キャリア啓発を目的とした科目を配置する。

教育方法

・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。

・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。

① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【入学者受入れの方針】

法学部では、日本国憲法の理念に基づき、法学と政治学の教育・研究を通じて、広い教養と専門的な知識をもって主体的に行動し、鋭い人権感覚と正義感のもとに自ら発見した問題を社会と連携して解決できる、自立的な市民の育成を目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

現代社会に生起する諸問題に広く関心を有するとともに、その解決に取り組む意欲を有する人
問題を論理的に分析する能力や、自らの意見を論理的に表明する能力を有する人
自ら問題を発見し、それについて自ら考え、行動する能力を有する人

ついては、高等学校等での学習では、国語や英語の学習を通して論理的思考力を養うとともに、他者の考えを理解し自らの考えを表明する力を鍛えること、地理歴史や公民等の学習を通して現代社会に対する問題意識を高めることを望みます。

学部等名　：理工学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【理工学部の教育理念・目的】

建学の精神に基づいて、科学と人間の調和を重視し、理学と工学における基礎から応用にいたるまでの広範な教育・研究を通じて技術の高度化に対し貢献できる高い倫理観を持った科学技術者を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【卒業認定・学位授与の方針［学士（理学・工学）］】

理工学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

理工学部の学生に保証する基本的な資質・能力

建学の精神

・仏教、ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。
・建学の精神に基づいて、豊かな人間性と高い倫理観をそなえ、社会的責務に対する自覚を持っている。

知識・理解

・科学技術の進歩に対応できる専門分野の基礎から応用にいたる知識を身につけている。
・英語についての基本的な知識を持ち、英語と日本語の基本的な成り立ちや機能の違いを理解している。
・幅広く社会全体を見渡すために必要な知識や教養を身につけている。

思考・判断

・科学技術が自然や社会に対してどのような影響力を持っているかをよく理解し、グローバルな視点から自律的にまた論理的に判断することができる。
・基本的な論理的思考能力を持ち、外国の文化や事情について柔軟かつ公正な思考、判断ができる。
・論理的能力・問題解決力を身につけている。

興味・関心

・問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学習を継続的に行うことができる。
・広く日本を取り巻く国際情勢や文化に対する興味を持ち、国際的な視野から幅広い知識を身につけている。

態度

・高い倫理性をもって、専門的知識と技術を総合的に活用することができる。
・世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対応することができる。
・日本語だけでなく英語を通じても、外国からの情報を得、文化を理解吸収しようとする姿勢を持つ。

技能・表現

・科学技術の進歩に対応できる基礎から応用にいたる専門の技術を身につけている。
・知的生産の技術を身につけている。
・国際化時代に対応できる英語で読む・書く・聴く・話すという四技能の基礎的運用能力を持っている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に 4 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を必要とする。
3. 卒業認定を受けるためには、「特別研究論文（卒業論文）」を提出し、審査に合格しなければならない。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

理工学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び固有科

目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境の向上・学習支援態勢を整備する。

理工学部の教育内容

・仏教の思想と高い倫理性を養うための科目である「仏教の思想」（2 科目）を必修科目として設置する。
・視野の広い技術者となるために必要な幅広い教養を身につけるため、教養教育科目を人文社会学系学部と共同で開講する。
・国際化に対応できる語学力を身につけるため、読む・書く・聞く・話すことを基礎とする英語科目を１ 年次から連続して開講し、その後、理工学部専任教員による科目においてより専門的かつ実践的な英語教育を展開する。
・固有科目を１ 年次から配置して、基礎から応用への体系的なカリキュラム体制とする。専門基礎科目においては、講義科目と演習を組み合わせ、知識を確実に身につけさせる。加えて、外部講師による最先端の科学に関する講義科目や「学外実習」等の企業現場や実地研修を行うインターンシップ型科目を専門の講義科目と併せて開講する。

教育方法

・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。
① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
・「特別研究」の評価は、論文等の成果物の評価と口述試問評価によって行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【入学者受入れの方針】

理工学部では、現代の自然科学を代表するキーワードである「情報」「システム」「エネルギー」「材料・物質」「環境」に対応し、人間と地球環境に調和した科学・技術の発展を支える６学科で構成されています。それぞれの学科において、最新の理学と工学を融合させることにより、新しい視点に立った学問の道を開き、時代の要請にかなった先端技術の発展に寄与しうる人材の育成を目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

広い分野にわたり基礎学力に優れ、科学的センスを持っている人
明確な目的意識と勉学意欲を持っている人
知的好奇心や自然科学への関心を持っている人

ついては、高等学校等での学習では、科学技術を学ぶ上で不可欠な英語・数学・理科を中心に、理工学部で教育を受ける上で基本となる高校での教科を幅広くしっかりと勉学していることを望みます。

学部等名　：社会学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【社会学部の教育理念・目的】

建学の精神に基づいて、多様な価値が錯綜する現代において、人が営む共同体である「社会」のあり方を学び、人と人、人と組織や社会との関わり方やそこで発生する諸問題の分析・解決の視点と手法を身につけた人間を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

◎社会学科
【卒業認定・学位授与の方針［学士（社会学）］】

社会学部の「教育理念・目的」に基づき、社会学科が示す資質・能力を身につけたことが客観的に確認され、かつ必要な在学期間と卒業要件単位数を満たした者に対して、教授会の議を経て「学士（社会学）」の学位を授与する。

社会学部　社会学科の学生に保証する基本的な資質・能力

①建学の精神の具現化
・建学の精神の意義について理解している。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得
・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。
・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。
・広い視野から社会の諸問題を把握し、解決するための基礎的な知識・技能を身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上
・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。
・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
・社会の諸問題を論理的に分析し、解決の方向性を考え、それらを表現するための知識・能力を身につけている。
・また、社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身に

つけている。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」） の発展・向上

・社会の諸問題に対する強い関心・興味をもち、持続可能な共生社会の実現に向けて、主体性をもって多様な人々と協働しながら取り組むことができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

・学部に４年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
・卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を必要とする。
・卒業年次には、「卒業論文」を提出し、合格しなければならない。

◎コミュニティマネジメント学科
【卒業認定・学位授与の方針［学士（社会学）］】

社会学部の「教育理念・目的」に基づき、コミュニティマネジメント学科が示す資質・能力を身につけたことが客観的に確認され、かつ必要な在学期間と卒業要件単位数を満たした者に対して、教授会の議を経て「学士（社会学）」の学位を授与する。

社会学部　コミュニティマネジメント学科の学生に保証する基本的な資質・能力

①建学の精神の具現化

・建学の精神の意義について理解している。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。
・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。
・まちづくり、心身の健康づくり、ネットワークづくりを行うための、調査・分析・企画・実践に関する基礎的な知識・技能を身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。
・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
・地域社会が抱える諸問題に対して、多角的・創造的に思考・判断することができ、理論と実践を架橋することができる。
・また、社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身につけている。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」） の発展・向上

・国際社会や地域社会の「現場」に興味・関心をもち、問題解決に向けて、他者との協働を重視しながら主体的に取り組むことができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

・学部に４年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。

・卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を必要とする。
・卒業年次には、「卒業研究」を提出し、合格しなければならない。

◎現代福祉学科
【卒業認定・学位授与の方針［学士（社会福祉学）］】

社会学部の「教育理念・目的」に基づき、現代福祉学科が示す資質・能力を身につけたことが客観的に確認され、かつ必要な在学期間と卒業要件単位数を満たした者に対して、教授会の議を経て「学士（社会福祉学）」の学位を授与する。

社会学部 現代福祉学科の学生に保証する基本的な資質・能力

①建学の精神の具現化
・建学の精神の意義について理解している。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得 ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。
・社会福祉に関する問題を総合的に捉え、原理、法制度、政策等を理解し、当事者の視点に立った地域課題の解決策を構築するための基礎的な知識・技能を身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上
・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。
・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
・社会の諸問題の解決必要な論理的思考力を備え、当事者の視点に立った地域課題の解決に必要なネットワーク形成やコーディネートを見出す判断力を持ち、それらを実行できる知識・技能を身につけている。
・また、社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身につけている。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上
・多様な価値を尊重しながら、国内外の社会問題への関心を持ち、主体性を持って社会を変革しようとする行動を取ることができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法
・学部に４年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
・卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を必要とする。
・卒業年次には、「卒業研究」を提出し、合格しなければならない。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

◎社会学科
【教育課程編成・実施の方針】

社会学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

社会学部　社会学科の教育内容

①建学の精神の具現化

・建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
・広い視野から社会の諸問題を把握し、解決するための基礎的な知識・技能を身につけるために、1～2 年次を中心に社会調査の手法、情報処理及び文書作成に関する基礎的な実習・演習系科目を必修科目として開講する。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。
・社会の諸問題を論理的に分析し、解決の方向性を考え、それらを表現するための知識・能力を身につけるために、2～3 年次を中心に、学科専門科目をはじめ、調査手法、情報処理及び文書作成に関する発展的な実習・演習系科目を開講する。
・また、社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

・社会の諸問題に対する強い関心・興味をもち、持続可能な共生社会の実現に向けて、主体性をもって多様な人々と協働しながら取り組むことができるために、3～4 年次においてゼミナールを中心とする演習科目「社会学演習ⅠA～Ⅱ

B」及び卒業論文を必修科目として開講する。

教育方法

･学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期(配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。

･全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

･学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。

①筆答試験による評価
②レポート試験による評価
③実技試験による評価
④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

･卒業論文の評価は、「論文」及び「口述試問」の評価によって行う。

◎コミュニティマネジメント学科
【教育課程編成・実施の方針】

社会学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

社会学部　コミュニティマネジメント学科の教育内容

①建学の精神の具現化

・建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
・まちづくり、心身の健康づくり、ネットワークづくりを行うための、調査・分析・企画・実践に関する基礎的な知識・技能を身につけるために、1～2 年次を中心にマネジメントの手法、情報処理及び文書作成に関する基礎的な実習・演習系科目を必修科目として開講する。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する

能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。
・地域社会が抱える諸問題に対して、多角的・創造的に思考・判断することができ、理論と実践を架橋することができるようになるために、2～3 年次を中心に、学科専門科目をはじめ、社会のさまざまな現場において実践するための実習科目を開講する。
・また、社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上
・国際社会や地域社会の「現場」に興味・関心をもち、問題解決に向けて、他者との協働を重視しながら主体的に取り組むことができるために、3～4 年次において演習科目である「参画ゼミナールⅠ～Ⅳ」及び卒業研究を必修科目として開講する。

教育方法
･学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
･全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価
･学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。
① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
･卒業研究の評価は、「論文」または「制作及び副論文」の評価によって行う。

◎現代福祉学科
【教育課程編成・実施の方針】

社会学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

社会学部　現代福祉学科の教育内容
①建学の精神の具現化
・建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
・社会福祉に関する問題を総合的に捉え、原理、法制度、政策等を理解し、当事者の視点に立った地域課題の解決策を構築するために、1 年次を中心に社会福祉、社会イノベーション、ソーシャルワークに関する基盤となる科目を必修科目として開講する。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上
・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。
・社会の諸問題の解決必要な論理的思考力を備え、当事者の視点に立った地域課題の解決に必要なネットワーク形成やコーディネートを見出す判断力を持ち、それらを実行できる知識・技能を身につけるために、2～3 年次を中心に専門の講義・演習科目及び様々な社会福祉援助技術を学ぶための現場実習科目を開講する。
・また、社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上
・多様な価値を尊重しながら、国内外の社会問題への関心を持ち、主体性を持って社会を変革しようとする行動を取ることができるために、3～4 年次において演習科目である「現代福祉学演習Ⅰ・Ⅱ」及び卒業研究を必修科目として開講する。

教育方法
･学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
･全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価
･学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。
① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

･卒業研究の評価は、「論文」の評価によって行う。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）
（概要） **◎社会学科** **【入学者受入れの方針】** 社会学部では、建学の精神に基づいて、社会を単なる人と人との結びつきと捉えるだけでなく、社会と環境との結びつきをも重視する必要があると考え、社会や地域における多様な関係を尊重する教育理念を掲げています。また、社会や地域に生起する諸問題を理論と実践の両面から統合的に理解する「現場主義」を重視しています。このような理念のもと、ＩＴ化、グローバル化、少子高齢化など急速な社会変化によって生じる現代社会の諸問題に対して、創造的に対応できる知識や専門的能力、問題解決能力をもった人の育成を目指しています。 そのため、次のような人が入学することを求めています。 「知識・技能」の修得 現代社会に関して幅広く関心をもって勉学に取り組む人 「思考力・判断力・表現力」の発展・向上 社会や地域に生起する諸問題を分析し、その解決を図る方法について考察する意欲をもった人 「主体性・多様性・協働性」の発展・向上 社会の諸問題を「現場」から探求し、持続可能な共生社会の実現に向けて主体的に取り組む人 ついては、高等学校等での学習では、さまざまなコミュニケーションを行う上での基本ツールとなる国語、英語、加えて、社会や歴史に関する科目を中心として、社会や身の周りのさまざまな事象に興味・関心が持てるよう、すべての教科を幅広くしっかりと勉強することを望みます。 **◎コミュニティマネジメント学科** **【入学者受入れの方針】** 社会学部では、建学の精神に基づいて、社会を単なる人と人との結びつきと捉えるだけでなく、社会と環境との結びつきをも重視する必要があると考え、社会や地域における多様な関係を尊重する教育理念を掲げています。また、社会や地域に生起する諸問題を理論と実践の両面から統合的に理解する「現場主義」を重視しています。このような理念のもと、ＩＴ化、グローバル化、少子高齢化など急速な社会変化によって生じる現代社会の諸問題に対して、創造的に対応できる知識や専門的能力、問題解決能力をもった人の育成を目指しています。 そのため、次のような人が入学することを求めています。 「知識・技能」の修得 現代社会に関して幅広く関心をもって勉学に取り組む人 「思考力・判断力・表現力」の発展・向上 社会や地域に生起する諸問題を分析し、その解決を図る方法について考察する意欲をもった人 「主体性・多様性・協働性」の発展・向上

国際社会や地域社会の「現場」に関心をもち、問題解決に向けて他者との協働を重視しながら主体的に取り組む人

ついては、高等学校等での学習では、さまざまなコミュニケーションを行う上での基本ツールとなる国語、英語、加えて、社会や歴史に関する科目を中心として、社会や身の周りのさまざまな事象に興味・関心が持てるよう、すべての教科を幅広くしっかりと勉強することを望みます。

◎現代福祉学科
【入学者受入れの方針】

社会学部では、建学の精神に基づいて、社会を単なる人と人との結びつきと捉えるだけでなく、社会と環境との結びつきをも重視する必要があると考え、社会や地域における多様な関係を尊重する教育理念を掲げています。また、社会や地域に生起する諸問題を理論と実践の両面から統合的に理解する「現場主義」を重視しています。このような理念のもと、ＩＴ化、グローバル化、少子高齢化など急速な社会変化によって生じる現代社会の諸問題に対して、創造的に対応できる知識や専門的能力、問題解決能力をもった人の育成を目指しています。
そのため、次のような人が入学することを求めています。

「知識・技能」の修得
現代社会に関して幅広く関心をもって勉学に取り組む人
「思考力・判断力・表現力」の発展・向上
社会福祉に関心をもち、地域・企業・学校などさまざまな領域の社会福祉実践や社会貢献活動を通じて社会の諸問題の解決に取り組む意欲のある人
「主体性・多様性・協働性」の発展・向上
社会福祉に関する問題の「現場」に関心をもち、多様な価値を尊重しながら、主体性を持って社会を変革するために行動できる人

ついては、高等学校等での学習では、さまざまなコミュニケーションを行う上での基本ツールとなる国語、英語、加えて、社会や歴史に関する科目を中心として、社会や身の周りのさまざまな事象に興味・関心が持てるよう、すべての教科を幅広くしっかりと勉強することを望みます。

学部等名　：政策学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）
（概要） **【政策学部の教育理念・目的】** 建学の精神に基づいて、共生の哲学を基礎に、政策学の教育と研究を通じて広い教養と専門的な知識を身につけ、社会の持続可能な発展のために主体的に行動するとともに、自ら発見した問題を社会と連携して解決できる、高い公共性と市民性を持つ自立的な人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【卒業認定・学位授与の方針［学士（政策学）］】

政策学部の「教育理念・目的」に基づき、教養科目及び専攻科目の履修を通じて、以下の基本的資質・能力を備えるに至った学生に学士（政策学）の学位を授与する。

政策学部の学生に保証する基本的な資質・能力
〇教養教育科目により保証する資質・能力　●専攻科目により保証する資質・能力

①建学の精神の具現化
〇建学の精神の意義について理解している。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得
〇外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。
〇諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。
●政策学及び関連する学問領域の幅広い専門的知識を深く理解している。
●人類的及び地域的課題を政策学の知識を用いて分析し、課題の本質を適切に把握することができる。
●政策的課題を他者と協力して達成するためのコミュニケーション能力を身につけている。
●政策学に関する知的情報の受信、選択、分析、発信を行うための、言語や情報処理を含めた基本的なリテラシーを身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上
〇外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。
〇幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
●持続可能な発展の観点から、人類的及び地域的課題について、論理的かつ多角的に思考・判断することができる。
●政策的課題の解決のための適切な政策を立案・実施する基本的な能力を身につけている。
●政策的課題に関する調査の報告や情報を活用することができる。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上
●人類的及び地域的課題に対して、自己に関連づけながら、主体的かつ具体的な課題を設定することができる。
●人類的及び地域的課題に対して、多様性や異文化を受容しつつ、他者と協働で解決することができる。
●政策学の学びや他者との協働を通じて、自己を客観視し自律的に学習し続ける態度を身につけている。
●政策学の学びや他者との協働を通じて、社会の要請に応えうる就業力を身につけている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に４年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を必要とする。
3. 学部共通コース所属学生は、所属コースの修了要件を満たすこと。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

政策学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応が可能となるよう学習環境・支援体制を整備する。

政策学部の教育内容
〇教養教育科目にかかる教育内容　●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化
〇建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得
〇外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
〇諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
●政策学及び関連する学問領域の幅広い専門的知識を深く理解するための基礎科目を、必修科目・履修指導科目・コース必修科目として３セメスターまでに配置する。
●人類的及び地域的課題を適切に分析し本質を把握する力を養うために、グローバル・シチズンシップ・エデュケーション A～D など、グローカルな視点を重視した専攻基本科目を配置する。
●基礎演習 I・II やコミュニケーション・ワークショップ演習など、他者と協働するためのコミュニケーション能力の向上を重視した専攻導入科目を配置する。
●政策学に必要な研究技法、言語、情報処理などの基本的なリテラシーを身につけるための科目を設置する。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上
〇外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解

する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●持続可能な発展の観点から、人類的及び地域的課題について、論理的かつ多角的に思考・判断することができる力を養う専攻コース科目を配置する。

●政策的課題の解決のための適切な政策を立案・実施する基本的な能力を身につけるための専攻コース科目を配置する。

●政策的課題に関する調査の報告や情報を活用するための専攻コース科目を配置する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●人類的及び地域的課題に対して、自己に関連づけながら、主体的かつ具体的な課題を設定する力を養うために、演習 I・II などの少人数型専門演習科目を配置する。

●人類的及び地域的課題に対して、多様性や異文化を受容しつつ、他者と協働で解決する力を養うために、政策実践・探究演習 IA・IIA（国内・海外）などの PBL 型専門演習科目を配置する。

●政策学の学びや他者との協働を通じて、自己を客観視し自律的に学習し続ける態度を身につけるために、政策学研究発展演習 I・II など、大学院への接続も視野に入れた専門演習科目を配置する。

●社会が要請する就業力を身につけるために、企業の CSR 実践演習などのキャリア系専門演習科目を配置する。

教育方法

学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。

全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。

① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【入学者受入れの方針】

政策学部では、建学の精神に基づいて、幅広い教養と専門的な知識を身につけ、社会の持続可能な発展のために主体的に行動するとともに、自ら発見した問題を社会と

連携して解決できる、公共性を深く理解し、高い市民性を持つ自立的な人の育成を目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

人文･社会･自然科学の領域について幅広い関心を持ち、総合的な視点から現代社会の課題解決に取り組む意欲を持っている人
都市問題、環境問題など、人類的かつ地域的視点で取り組むことが求められる課題を解決することに関心を持っている人
公共性と市民性を学ぶ意欲を持ち、他者と協働・連携しながら、政策的課題解決のための政策を立案・実施する能力を備えた人材（地域公共人材）となるために勉学に取り組む人

ついては、高等学校等での学習では、コミュニケーション能力と論理的思考力を養い、国内外の社会問題に関心を持てるように、幅広く勉強することを望みます。

学部等名　：国際学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【国際学部の教育理念・目的】

建学の精神に基づいて、異文化への理解と敬意を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、グローバル化が加速する時代において、柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人間を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

◎国際文化学科
【卒業認定・学位授与の方針［学士（国際文化学）］】

国際学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法を次に掲げる。

国際学部　国際文化学科の学生に保証する基本的な資質・能力
〇教養教育科目により保証する資質・能力　●専攻科目により保証する資質・能力

①建学の精神の具現化
〇建学の精神の意義について理解している。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得
〇諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。
●日本を含む世界の様々な国、地域、宗教等における文化の多様な側面を理解

することができる。
●日本語および外国語で書かれた文献資料等を調査し、かつ、批判的に読み解くことができる。
●英語をはじめ、任意の外国語をその文化的背景も含めて学び、かつ、実践的に活用することができる。
●「世界と日本をつなぐ」上で求められる、言語・人文・社会科学にわたる幅広い教養を身につけている。
●社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上
○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
●フィールド調査など実践的な授業や活動を通じて、異なる文化間に生じる諸問題を発見し、解決する上で役立つ実践的な経験を持っている。
●異なる文化の独自性を尊重できると同時に、自らが所属する文化の特質や意義を認識している。
●異なる文化間に内在する課題を発見し、互恵的・建設的な解決策を論理的に導く能力を持っている。
●レポートや卒業論文など、一定の書式に沿って自己の主張をまとめることができる。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上
●世界の様々な国、地域における言語や文化に対する幅広い関心と、飽くなき探究心を持っている。
●国際的な諸問題と深く関わる世界三大宗教（仏教・キリスト教・イスラーム教）に対する関心を持っている。
●日本社会や日本文化の歴史的な蓄積を理解した上で、現代的な諸課題に対する関心を持っている。
●複雑化、多様化する国際社会の状況を踏まえ、一面的に物事を捉えない視座を持っている。
●自らの所属する文化を常に相対的に眺め、様々な文化を優劣関係で捉えない寛容な精神を持っている。
●常に他者の立場に配慮しながら、主体的に物事に対して思考・判断・行動することができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に 4 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3 年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を必要とする。

◎グローバルスタディーズ学科
卒業認定・学位授与の方針［学士（グローバルスタディーズ）］

国際学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必

要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

国際学部　グローバルスタディーズ学科の学生に保証する基本的な資質・能力
〇教養教育科目により保証する資質・能力　●専攻科目により保証する資質・能力

① 建学の精神の具現化
〇建学の精神の意義について理解している。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得
〇諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。
●グローバルなイシューやコミュニケーションに関する知識をもち、日本語と英語を適切に運用できるとともに、世界の諸事象を複眼的に分析するための知識と方法を修得している。
●社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上
〇幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
●論理的であると同時に、柔軟な批判的精神をもち、自己の置かれた環境を、歴史的・社会的・地域的・国際的な観点から相対化し、固定観念に捉われることなく考察することができる。

④ 主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上
●揺るがない倫理観に基づき、多様な価値観を尊重し、チャレンジ精神と精神的な強さをもって国際的な舞台においてリーダーシップを発揮することができる。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に 4 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、 3 年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を必要とする。
3. TOEIC®730 点、TOEFL®（550-PBT、80-iBT）、IELTS™6.0 のいずれかを取得することを必要とする。
4. 1 セメスター以上の留学を必要とする。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

◎国際文化学科
【教育課程編成・実施の方針】

国際学部の教育理念・目的および卒業認定･学位授与の方針に明示した「基本的な資

質・能力」をすべての学生が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるよう学習環境・支援体制を整備する。併せて、国際学部の教育理念・目的を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備する。

国際学部　国際文化学科の教育内容
○教養教育科目にかかる教育内容　●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。

●外国語運用能力を涵養するため、1年次には週5回、2年次には週3回の「学科外国語科目」（英語・中国語・コリア語・フランス語から選択）を開講する。

●2年次から「学科専攻科目」として、学科外国語科目で提供した外国語に加えて、さらに多様な外国語科目（ペルシア語、トルコ語、アラビア語、スペイン語、ドイツ語、ロシア語、ポルトガル語）を配置する。

●大学での学びの基礎を確立するため、「基礎演習A・B」（各2単位）を1年次に展開する。

●今後の学びにとって重要な学修スキルを身につけるため「調査分析の基礎A・B」を設ける。

●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するため、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●「世界を学び、日本を知る」という学科の理念に基づき、また、国内外の多様な文化を結ぶファシリテーターを育成するため、『多文化共生』、『世界と日本』、『芸術・メディア』の3コースを設ける。

●各コースでは、学問領域を系統的に学修できるよう、入門的科目等の基礎科目、専攻科目をバランスよく配置してカリキュラムを展開する。

●学生は、学科専攻科目46単位のうち34単位をコース提供科目から取得する。

●3年次からは「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（「演習Ⅰ」は登録必修。各2単位）を開講し、各自の興味あるテーマについての学びを深める。

●4年次に「卒業論文」（6単位）を履修し、論文としての結実を目指す。これにより、一貫して専任教員の下で少人数教育を受けることを可能とする。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の

発展・向上

●留学生を積極的に受け入れ、また、充実したサポート体制の下に学生の海外留学（交換留学および私費留学）を推奨し、語学力向上とともに、授業内外での異文　　化理解の促進、異文化交流機会の拡充に努める。

●他受講者や社会との関わりを持つことのできる国際または文化をテーマとした実践的な取り組みの機会（国際文化実践プログラム）を提供する。

教育方法

・学生が、自らの学修目的や進路希望に応じて各科目の性格や開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう、多様な授業形態（講義・演習・実習など）により科目を開設する。

・全ての科目は、講義概要、到達目標、講義方法、授業評価の方法、授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

・学修成果の有無やその内容・水準等を評価するため、科目の特性に応じておおよそ次の４種類の方法のいずれか、または複数を合わせて評価する。

①筆答試験による評価
②レポート試験による評価
③実技試験による評価
④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

◎グローバルスタディーズ学科
【教育課程編成・実施の方針】

国際学部の教育理念・目的および卒業認定･学位授与の方針に明示した「基本的な資質・能力」をすべての学生が獲得できるよう、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるよう学習環境・支援体制を整備する。併せて、国際学部の教育理念・目的を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備する。

国際学部　グローバルスタディーズ学科の教育内容
〇教養教育科目にかかる教育内容　●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

〇建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

〇諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。

●「グローバルスタディーズ」という学問領域を学ぶために必要となる基礎的な知識を修得するため、「グローバルスタディーズ A～C」を開講する。

●英語の基礎スキルと実用的スキルを修得するため、１年次に英語集中プログラム(PEP プログラム)を配置する。

●情報収集・分析・発信能力を身につけるため「ＩＴリテラシーA・B」を開講する。
●大学生活において必要な基礎的スキルの修得のために、1 年次必修科目として「リサーチ方法論 A・B」を開講する。
●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するため、「キャリア啓発科目」を開設する。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。
●専門知識を複数の言語で理解し議論できる能力を養成するために、学科専攻科目のほとんどを英語のみ、または英語・日本語併用による講義として開講する。
●講義型科目は「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の 3 つの領域に分類して配置し、世界の諸事象を総合的かつ実践的な知識にもとづき分析できる能力の向上を図る。
●また、学年進行に応じて、異なる 2 領域が重なる科目、さらに 3 領域が重なる総合的科目を重視するカリキュラムとする。これにより、低年次から複合的な視点での思考や分析に習熟できるようにする。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●グローバルな舞台で活躍し、また国内外の国や地域を問わず通用する揺るがない倫理観を身につけるため、半年以上の長期留学を必修とする。
●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するため、「キャリア形成科目」を開設する。

教育方法

・学生が、自らの学修目的や進路希望に応じて各科目の特性や開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう、多様な授業形態（講義・演習・実習など）により科目を開設する。
・全ての科目は、講義概要、到達目標、講義方法、授業評価の方法、授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

・学修成果の有無やその内容・水準等を評価するため、科目の特性に応じておおよそ次の 4 種類の方法のいずれか、または複数を合わせて評価する。
① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
・卒業論文の評価は、論文評価と口述試問評価によっておこなう。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

◎国際文化学科
【入学者受入れの方針】

国際学部国際文化学科では、建学の精神に基づいて、異文化への理解を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、グローバル化が加速する時代において、柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力、問題解決能力及び倫理観を備えた人間の育成を目指しています。そのため、次のような人が入学することを求めています。

（知識・技能）
グローバル化が加速する時代の動向に強い関心と好奇心を有し、学部の教育理念を深く理解し、幅広く教養を身につけ、日本を含む世界の様々な国・地域・宗教等における文化の多様な側面と、その多様さゆえに生じる諸問題を調整するための知識と方法を学びたいと考える人、また、英語をはじめとする多様な外国語をその文化的背景も含めて学び、実践的な運用力を身につけたいと考える人
（思考力・判断力・表現力）
異文化に対して寛容かつ柔軟に対応し、将来、世界と日本をつなぐことに関わりたいという明確な目的意識を有すると同時に、自己の置かれた環境を相対化し、幅広い教養と外国語能力を活用して多角的に思考・判断・表現することで、社会の多様性に起因する諸問題を論理的に考察し、解決策を提案できるようになりたいと考える人
（主体性・多様性・協働性）
英語をはじめとする外国語能力のさらなる向上を目指すと同時に、世界三大宗教や日本社会・日本文化を含む多様な価値観を尊重しつつ、周囲との協調を図りながら、主として日本を舞台に国内外の多様な文化を結ぶファシリテーターとして、「世界と日本をつなぐ」役割を積極的に果たしていきたいと考える人

したがって、高等学校等での学習では、入学までに必要な基礎学力として、様々なコミュニケーションを行う上での基本ツールとなる英語、国語を中心として、国際文化学科で教育を受ける上で基本となる地理・歴史などの科目を幅広く勉強し、併せて日頃から国内外の社会の動向に関心を持つことを望みます。

◎グローバルスタディーズ学科
【入学者受入れの方針】

国際学部グローバルスタディーズ学科では、建学の精神に基づいて、異文化への理解を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、グローバル化が加速する時代において、柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力、問題解決能力及び倫理観を備えた人間の育成を目指しています。そのため、次のような人が入学することを求めています。

（知識・技能）
グローバル化が加速する時代の動向に強い関心と好奇心を有し、学部の教育理念を深く理解し、幅広く教養を身につけ、地球規模の諸問題（グローバルイシュー）を複眼的に理解・分析するための知識と方法を学びたいと考える人、また、世界を舞台に活躍できるような、英語の実践的かつ高度な運用力を身につけたいと考える人
（思考力・判断力・表現力）
異文化に対して寛容かつ柔軟に対応し、将来、国際社会の持続可能な発展や、英語によるコミュニケーション活動の発展に貢献したいという明確な目的意識を有すると同時に、幅広い教養と高度な英語運用能力を活用して多角的に思考・判断・表現するこ

とで、英語教育を含むグローバルイシューを論理的に考察し、解決策を提案できるようになりたいと考える人
（主体性・多様性・協働性）
英語の基礎的な能力が高く、かつ、英語運用能力のさらなる向上を目指すと同時に、世界の多様な価値観を尊重しつつ、グローバルに通用する倫理観と複眼的な批判精神を備え、周囲との協調を図りながらも、日本を含む国際社会で力強くリーダーシップを発揮していきたいと考える人

したがって、高等学校等での学習では、入学までに必要な基礎学力として、様々なコミュニケーションを行う上での基本ツールとなる英語、国語を中心として、グローバルスタディーズ学科で教育を受ける上で基本となる政治・経済などのグローバルイシューと深く関連する科目を幅広く勉強し、併せて日頃から国内外の社会の動向に関心を持つことを望みます。

学部等名　：農学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）
（概要） **【農学部の教育理念・目的】** 建学の精神に基づいて、人類が直面する「食」と「農」に関する国内外の諸問題に対して真摯に向き合い、農学の立場から正しい判断ができる力を備えた、持続可能な社会の実現に貢献しうる人の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）
（概要） **【卒業認定・学位授与の方針［学士（農学）］】** 農学部の「教育理念・目的」に基づき、以下の基本的な資質・能力を備えるに至った学生に学士（農学）の学位を授与する。 **農学部の学生に保証する基本的な資質・能力** **〇教養教育科目により保証する資質・能力　●専攻科目により保証する資質・能力** ①建学の精神の具現化 〇建学の精神の意義について理解している。 ②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得 〇外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。 〇諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。 ●農学の理論とその実践について説明できる。 ●幅広い学問領域について基礎的な知識をもち、それぞれの領域がもつ見方について説明することができる。 ●自ら発見した課題を論理的に分析し、自らの考えを文章で表現し、それをプレゼンテーション・ディスカッションできる。 ●「食」と「農」に関する諸課題を解決できる適切な技能を身につけている。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解することができる。
○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。
●「食」と「農」に関する諸現象を論理的に分析できる。
●基本的な論理的思考能力をもち、多角的な観点から柔軟かつ公正に思考し判断ができる。
●問題を発見し、課題を解決する能力を身につけている。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●地球環境と国内外の農業の動向に対して常に興味・関心を示している。
●「食」と「農」をとりまく諸現象について、探究心をもって具体的な課題設定ができる。
●問題を解決するために必要となる専門的知識を自ら進んで修得し、時代の変化や社会の要請に合致した学習を継続的に行うことができる。
●高い倫理性をもって、専門知識と技術を総合的に活用することができる。
●世界的な視野をもって社会が直面するさまざまな課題に主体的・積極的に対することができる。
●多様な価値観を認めつつ、学びを通じて自己の認識を広げ、感性を磨くことができる。
●社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通した持続的な就業力を身に付けている。

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に 4 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3 年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を修得する。
3. 卒業認定を受けるためには、「特別研究」を行い合格しなければならない。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

◎植物生命科学科
【教育課程編成・実施の方針】

未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する必要がある。そこで、農学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

農学部 植物生命科学科の教育内容
○教養教育科目にかかる教育内容　●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想Ａ」・「仏教の思想Ｂ」）を全学必修科目として開講する。

●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（２単位）を設置する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。

●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（２単位）を必修科目として設置する。

●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（２単位）を全員履修科目として設置する。

●「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。

●農業の基礎となる農作物の生育や変異の仕組み、すなわち、植物の生理現象や変異と進化、その生育における外的要因の影響を総合的に理解するために、植物生理学や遺伝学をはじめとする生命科学領域の基礎科目を学ぶ。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」（各２単位）を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。

●農業の基礎となる農作物の生育や変異の仕組み、すなわち、植物の生理現象や変異と進化、その生育における外的要因の影響を総合的に理解するために、植物生理学や遺伝学をはじめとする、生命科学領域の応用科目を学ぶ。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。

●実験・実習を通じて実際の植物の生理や遺伝現象の観察を行う。さらに、講義と実験・実習で身につけた知識と技術を活用して、自ら学び研究する総合演習や特別研究を行う。
●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

教育方法

・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。
① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
・卒業論文（特別研究）の評価は、論文及び発表評価によって行う。

◎資源生物科学科
【教育課程編成・実施の方針】

未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する必要がある。そこで、農学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

農学部資源生物科学科の教育内容
〇教養教育科目にかかる教育内容　●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化
〇建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。
●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（２単位）を設置する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得
〇外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。
〇諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（２単位）を必

修科目として設置する。

●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（２単位）を全員履修科目として設置する。

●未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する。農学部の「教育理念・目的」「学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。

●「食の安全・安心」を支える農作物の生産、すなわち品種育成や作物多様性、土壌などの栽培環境の保全、農薬や肥料などが環境に与える影響などを実証的かつ総合的に理解するために、育種学や作物学をはじめとする、農業に直結する自然科学領域の基礎科目を学ぶ。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」（各２単位）を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。

●「食の安全・安心」を支える農作物の生産、すなわち品種育成や作物多様性、土壌などの栽培環境の保全、農薬や肥料などが環境に与える影響などを実証的かつ総合的に理解するために、育種学や作物学をはじめとする、農業に直結する自然科学領域の応用科目を学ぶ。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。

●実験・実習を通じて実際の植物の育成や栽培を行う。さらに、講義と実験・実習で身につけた知識と技術を活用して、自ら学び研究する総合演習や特別研究を行う。

●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

教育方法

・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。

・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。

① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

・卒業論文（特別研究）の評価は、論文及び発表評価によって行う。

◎食品栄養学科

【教育課程編成・実施の方針】

未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する必要がある。そこで、農学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

農学部　食品栄養学科の教育内容

○教養教育科目にかかる教育内容　●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想 A」・「仏教の思想 B」）を全学必修科目として開講する。

●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（２単位）を設置する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得 ○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。

●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（２単位）を必修科目として設置する。

●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（２単位）を全員履修科目として設置する。

●未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する。農学部の「教育理念・目的」「学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。

●人の健康を支える上で必要不可欠な「食と栄養」について学ぶ。また、人々の健全な食生活をサポートする管理栄養士の養成課程でもあることから、基礎栄養学をはじめ、生理学、生化学、食品化学などの専門基礎科目を学ぶ。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」（各２単位）を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。

●人々の健全な食生活をサポートする管理栄養士の養成課程でもあることから、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論などの実践的専門科目を学ぶ。

●実験科目を通じて食と栄養の仕組みや食品加工の実際を観察・体験し、学内外での実習を通じて食に携わる人材としての資質を形成する。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。

●臨地校外実習を実施することで、管理栄養士が活躍する現場で、様々な他職種の人々との協同性を養う。

●講義と実験・実習で身につけた知識と技術を活用して、自ら学び研究する総合演習や特別研究を行う。

●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」、「臨地実習」を開設する。

教育方法

・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。

・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。

① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

・卒業論文（特別研究）の評価は、論文及び発表評価によって行う。

◎食料農業システム学科
【教育課程編成・実施の方針】

未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する必要がある。そこで、農学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

農学部 食料農業システム学科の教育内容
○教養教育科目にかかる教育内容　●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解するために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。

●「仏教の思想」と農学研究を架橋するために初年次の必修科目として「食と農の倫理」（２単位）を設置する。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、１年次配当（第１・第２セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。

●分野が広範にわたる農学を総合的に理解するため「農学概論」（２単位）を必修科目として設置する。

●情報リテラシー等を学ぶ「入門ゼミ」（２単位）を全員履修科目として設置する。

●未来の持続可能な農業を構築するために、文理融合型の人材を育成する。農学部の「教育理念・目的」「学位授与の方針」に基づいて、「農学概論」を核に、「演習」と「講義」、「実習」を組み合わせた教育課程を編成・展開し「食」と「農」を理解できる基礎知識基盤を構築する。

●学科横断型カリキュラムにより文理融合型の知識基盤を構築する。低年次において他学科で開講される科目の履修を要件化し、理系・文系の垣根を越えた教育体系とする。

●「食」と「農」に関わる自然科学的な知識と「農」の実態に関する確かな認識を前提としつつ、「食」と「農」に関わる国内外の社会問題・経済問題に取り組む能力を養うことを目的としている。そのために、農業技術や食に関わる自然科学的な基礎知識を取得するための講義・実習を一定程度受講した上で、経済学、経営学、会計学、社会学といった社会科学関連の基礎科目を中心に学ぶ。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、２年次配当（第３・第４セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●農業に関するトータルプロセスを実体験できるプログラム「食の循環実習Ⅰ・Ⅱ」（各２単位）を必修科目として設置する。この科目では、講義・演習と実験・実習の組み合わせにより「食」と「農」を総合的に理解させ、かつ学科横断型科目として実施する事で学科の枠組みを超えた多面的な学びを達成し、加えて学生交流を誘起する。

●「食」と「農」に関わる自然科学的な知識と「農」の実態に関する確かな認識を前提としつつ、「食」と「農」に関わる国内外の社会問題・経済問題に取り組む能力を養うことを目的としている。そのために、農業技術や食に関わる自然科学的な基礎知識をふまえて、社会科学関連の応用科目を中心に学ぶ。

④主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●英語で書かれた文献の講読を通して最新の海外の研究動向を把握する。

●調査・実習等を通じて、農業や食産業の実態把握に努める。さらに、講義と実習で得た知識と知見を活用して、自ら学び研究する演習や卒業研究を行う。

●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

教育方法

・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。

・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価

・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。

① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

・卒業論文（特別研究）の評価は、論文及び発表評価によって行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【入学者受入れの方針】

農学部では、人類が直面する「食」と「農」に関する国内外の諸問題に対して真摯に向き合い、農学の立場から正しい判断ができる力を備えた、持続可能な社会の実現に貢献しうる人の育成を目指しています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。

1）これら「食」と「農」を支える領域への幅広い興味と、農学への強い意欲をもっ

ている人
2）農学の教育を行うにあたって、自然科学と社会科学に関心があり、関連する実習や実験をやり遂げる意思と能力をもった人

ついては、高等学校等での学習では、農学部で教育を受ける上で基本となる高校での教科を幅広く基礎的事項についてしっかり勉強することを望みます。

＜植物生命科学科＞
本学科では、農業の基礎となる農作物の生育や変異の仕組みを正しく理解するために、植物を中心とした生命科学領域を学びます。このため、生物学、化学をはじめとする自然科学的基礎学力を習得し、コミュニケーション能力と学びに対する積極性を有している人を求めます。

＜資源生物科学科＞
本学科では、「食の安全・安心」を支える農作物を生産する上で不可欠な技術などを正しく理解するために、農業に直結する自然科学領域を中心に学びます。このため、生物学、化学をはじめとする自然科学的基礎学力を習得し、コミュニケーション能力と学びに対する積極性を有している人を求めます。

＜食品栄養学科＞
本学科では、人の健康維持・増進に役立つ「食」について学びます。また、管理栄養士養成課程であることから、人々の健全な食生活をサポートするために必要な専門的科目を中心に学びます。このため、生物学、化学をはじめとする自然科学的基礎学力を習得し、コミュニケーション能力と学びに対する積極性を有している人を求めます。

＜食料農業システム学科＞
本学科では「食」と「農」に関わる問題を、単なる技術的な問題ではなく、「社会や経済の仕組みの問題」として正しく理解し、その解決方法を検討・考察するために「食と農に関わる社会科学」を中心に学びます。文系科目の基礎学力がある人、もしくは理系科目の基礎学力がある人の双方を希望します。また、「食」と「農」に関わる国内外の社会問題・経済問題を学ぶためには、農業の現場においてフィールドワークを行うことが重要な意味をもっています。コミュニケーション能力と学びに対する積極性を有している人を求めます。

学部等名　：先端理工学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）
（概要） **【先端理工学部の教育理念・目的】** 建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における基礎知識・技能を身に着け、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った技術者・研究者を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【卒業認定・学位授与の方針［学士（理学）］】

先端理工学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

先端理工学部の学生に保証する基本的な資質・能力

○教養教育科目により保証する資質・能力　●専攻科目により保証する資質・能力

①建学の精神の具現化

○建学の精神の意義について理解している。

●物事を正しく捉え、理解しようとする姿勢を持ち、高い倫理観を持って行動できる。

●人・もの・自然を大切にしながら、その多様性を理解し、それらと調和する科学・技術を志向できる。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

○諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

●自然科学・情報技術等の理工学の基礎、ならびに各課程の専門分野における基礎知識・技能（※別表参照）について、基本原理を理解したうえで身につけている。

●自身の専門分野に関する知識や技能が社会とどのように関わるかを考えられる。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

○外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解できる。

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現できる。

●論理的で柔軟な思考力を使って知識をつなぎ、組み合わせ、他分野とも協調しながら課題を解決できる。

●広い視野と深い洞察力を併せ持ち、豊かな創造性を発揮できる。

●日本語および外国語を使って様々な人とコミュニケーションを図れる。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●様々な事柄に興味・関心を持ち、自ら目標をもって粘り強く学べる。

●多様な経験と身につけた知識・技術に裏打ちされた自信をもち、自らを肯定的にとらえ、何事にも挑戦できる。

【別表】

学位	課程	基礎知識・技能	
理学	数理・情報科学 課程	（基礎知識）	・論理的に考える力を養う数学やプログラミングなどに関する基礎知識
		（基礎技能）	・課題を数理的に表現・分析し、解決方法を見い出す基礎技能
		（社会・産業で発揮されるべき能力）	・数理科学と情報科学の基礎知識・技能を活かし、変化の大きい未来に柔軟に対応する能力

【卒業認定・学位授与の方針［学士（工学）］】

先端理工学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

先端理工学部の学生に保証する基本的な資質・能力

〇教養教育科目により保証する資質・能力　●専攻科目により保証する資質・能力

①建学の精神の具現化

〇建学の精神の意義について理解している。

●物事を正しく捉え、理解しようとする姿勢を持ち、高い倫理観を持って行動できる。

●人・もの・自然を大切にしながら、その多様性を理解し、それらと調和する科学・技術を志向できる。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

〇外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

〇諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。

●自然科学・情報技術等の理工学の基礎、ならびに各課程の専門分野における基礎知識・技能（※別表参照）について、基本原理を理解したうえで身につけている。

●自身の専門分野に関する知識や技能が社会とどのように関わるかを考えられる。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

〇外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解できる。

〇幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現できる。

●論理的で柔軟な思考力を使って知識をつなぎ、組み合わせ、他分野とも協調しながら課題を解決できる。

●広い視野と深い洞察力を併せ持ち、豊かな創造性を発揮できる。

●日本語および外国語を使って様々な人とコミュニケーションを図れる。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

●様々な事柄に興味・関心を持ち、自ら目標をもって粘り強く学べる。

●多様な経験と身につけた知識・技術に裏打ちされた自信をもち、自らを肯定的にとらえ、何事にも挑戦できる。

【別表】

学位	課程	基礎知識・技能	
工学	知能情報メディア 課程	（基礎知識）	・情報メディア学・知能情報学・情報コミュニケーションに関する基礎知識
		（基礎技能）	・プログラミング技術・情報ツールの取扱い・技術文書の作成に関する基礎技能
		（社会・産業で発揮されるべき能力）	・情報を分析しアルゴリズムに基づいてシステム構築する能力
	電子情報通信課程	（基礎知識）	・ＡＩ、ネットワーク、デバイスなどの電子・情報・通信工学の基礎知識
		（基礎技能）	・電子・情報・通信工学のぞれぞれの専門領域に対応できる基礎技能
		（社会・産業で発揮されるべき能力）	・電子・情報・通信工学の様々な課題に主体的・積極的に対応できる能力
	機械工学・ ロボティクス 課程	（基礎知識）	・材料力学・機械力学・流体力学・熱力学等の機械工学に関する基礎知識 ・電子制御・制御工学等のロボティクスに関する基礎知識
		（基礎技能）	・機械やロボットの解析、設計、製作および実験に関する基礎技能
		（社会・産業で発揮されるべき能力）	・既存の機械やロボットを理解し運用する能力 ・新しい機械やロボットを創造する能力
	応用化学 課程	（基礎知識）	・物理化学・無機化学・有機化学等の化学に関する基礎知識
		（基礎技能）	・化学物質の取り扱いおよび化学実験等に関する基礎技能
		（社会・産業で発揮されるべき能力）	・化学物質を化学製品・材料に応用する能力 ・化学物質がもつ環境に対する影響力についての理解力
	環境生態工学課程	（基礎知識）	・生物・生態系・都市環境工学に関する基礎知識
		（基礎技能）	・環境を定量・評価・管理する基礎技能
		（社会・産業で発揮されるべき能力）	・人間活動の生物や環境への影響を把握し、環境の理解や問題解決に応用する能力

学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法

1. 学部に 4 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得したものに対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の 124 単位以上の単位数を必要とする。
3. 卒業認定を受けるためには、「特別研究」に合格しなければならない。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【教育課程編成・実施の方針】

先端理工学部の「教育理念・目的」、「卒業認定・学位授与の方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質・能力が獲得できるよう、多数の教養教育科目及び専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学修環境の向上・学修支援体制を整備する。

先端理工学部の教育内容

〇教養教育科目にかかる教育内容　●専攻科目にかかる教育内容

①建学の精神の具現化

〇建学の精神の意義について理解するために、「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」、「仏教の思想B」）を必修科目として開講する。

●建学の精神、人・もの・自然の多様性を正しく理解できる人材を育成するため、幅広い教養と豊かな人間性を養う。それに加え、自然・社会と科学との調和にもとづき、技術者・研究者としての倫理観、責任について自ら考える力を身につけさせる。

②（③の基礎となる）「知識・技能」の修得

〇外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

〇諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、選択必修科目を設置する。

●各専門領域の学修内容を理解し、自ら考えるために必要な、数学・物理学・化学・生物学等の自然科学に関する基礎学力、およびデータの処理・解析を含む基本的な情報リテラシーを身につけさせる。

●各専門分野の学問が社会にどのように関わり、大学での学修が将来の仕事にどのようにつながるかを考えさせ、学修の動機付けを行うとともに、自己学修の習慣を身につけさせる。

●学生が主体的に学ぶ事のできる教育課程を編成し、各専門分野の基礎となる知識・技能を身につけさせる。

●学生の個々の力を伸ばすため、各学生の能力を考慮した教育課程を設ける。

③（④の基盤となる）「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上

〇外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけさせるために、2年次配当の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。

〇幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけさせるために、2年次配当の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。

●専門分野および他分野を含む幅広い知識・技能を組み合わせながら、課題に取り組ませ、思考力・課題解決力を養う。

●特別研究においては、専門分野の基礎的な知識・技能を組み合わせて応用的な課題に取り組ませ、専門分野のより深い理解と探究を促す。
●日本語による文章読解力・傾聴力、実験結果や自身の考えなどを適切に表現できる記述力、対話力、発表力を身につけさせる。
●各学生が既に獲得している外国語能力に合わせた教育を行い、外国語を使ったコミュニケーション能力（読む、聞く、書く、話す）を向上させる。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上
●インターンシップやアクティブ・ラーニング、プロジェクト・ベースト・ラーニングを含む正課内および正課外での活動機会を提供し、学生が主体的に行う多様な学修を促す。
●分野横断型を含む学修プログラムを整備し、学生に、自身の専門分野にとどまらないより幅広い学修を促す。

教育方法
・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。
・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

学修成果の評価
・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の４種類の方法のうちのひとつまたは複数を合わせて評価を行う。
① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価

・「特別研究」の評価は、論文等の成果物の評価と口述試問評価によって行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen）

（概要）

【入学者受入れの方針】

先端理工学部では、建学の精神に基づき、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における基礎知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った技術者・研究者を育成することを目的としています。

そのため、次のような人が入学することを求めています。
1. 各専門分野における大学での学修の基盤となる、知識、思考力、判断力、情報収集力（文章読解力）、表現力を有している人
2. 大学での学修を通じて自己を成長させ、大学で学んだことを活かして自らのキャリアを形成し、社会貢献する意欲をもっている人
3. 自分自身で課題を見つけ、その課題を主体的に解決し成果をあげた実績がある、

あるいは解決する意志がある人
4. 専門分野に関心を持ち、その学修に取り組む意欲がある。専門以外の様々な事柄を学び、また様々な専門や立場を持つ人とのかかわりを通じて、多様な考え方を知り、教養を広げ、深めようとする意欲がある人

ついては、高等学校等での学習では、科学技術を学ぶうえで不可欠な英語・数学・理科を中心に、先端理工学部で教育を受けるうえで基本となる高校での教科を幅広くしっかりと勉学していることを望みます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/education.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
―	5 人						5 人
文学部	－	61 人	28 人	11 人	0 人	0 人	100 人
経済学部	－	22 人	22 人	8 人	0 人	0 人	52 人
経営学部	－	24 人	10 人	0 人	0 人	0 人	34 人
法学部	－	37 人	9 人	3 人	0 人	0 人	49 人
社会学部	－	32 人	15 人	7 人	0 人	0 人	54 人
政策学部	－	15 人	10 人	2 人	0 人	2 人	29 人
国際学部	－	27 人	11 人	3 人	0 人	0 人	41 人
農学部	－	27 人	12 人	11 人	0 人	0 人	50 人
先端理工学部	－	52 人	17 人	13 人	8 人	0 人	90 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	1，087 人	1,087 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：大学ホームページで公表 https://www.ryukoku.ac.jp/who/

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
文学部	979 人	935 人	95.51%	3,878 人	3,860 人	99.54%	30 人	21 人
経済学部	600 人	583 人	97.17%	2,364 人	2,340 人	98.98%	12 人	9 人
経営学部	519 人	520 人	100.19%	2,034 人	2,016 人	99.12%	5 人	4 人
法学部	445 人	449 人	100.90%	1,740 人	1,771 人	101.78%	5 人	5 人
理工学部	－	－	－	1,184 人	1,178 人	99.49%	－	3 人
社会学部	558 人	540 人	96.77%	2,252 人	2,235 人	99.25%	38 人	36 人
政策学部	308 人	303 人	98.38%	1,210 人	1,232 人	101.82%	5 人	7 人
国際学部	507 人	492 人	97.04%	2,036 人	2,030 人	99.71%	30 人	24 人
農学部	438 人	427 人	97.49%	1,768 人	1,702 人	96.27%	30 人	0 人
先端理工学部	580 人	578 人	99.66%	1,160 人	1136 人	97.93%	12 人	－
合計	4,934 人	4,827 人	97.83%	19,626 人	19,500 人	99.36%	167 人	109 人

（備考）

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
文学部	795 人 (100%)	53 人 (6.7%)	654 人 (82.3%)	88 人 (11.1%)
経済学部	531 人 (100%)	5 人 (0.9%)	464 人 (87.4%)	62 人 (11.7%)
経営学部	505 人 (100%)	5 人 (1.0%)	463 人 (91.7%)	37 人 (7.3%)
法学部	421 人 (100%)	9 人 (2.1%)	363 人 (86.2%)	49 人 (11.6%)
理工学部	552 人 (100%)	114 人 (20.7%)	406 人 (73.6%)	32 人 (5.8%)
社会学部	573 人 (100%)	5 人 (0.9%)	537 人 (93.7%)	31 人 (5.4%)
国際文化学部	3 人 (100%)	0 人 (0.0%)	1 人 (33.3%)	2 人 (66.7%)
政策学部	304 人 (100%)	6 人 (2.0%)	276 人 (90.8%)	22 人 (7.2%)
国際学部	454 人 (100%)	12 人 (2.6%)	390 人 (85.9%)	52 人 (11.5%)
農学部	381 人 (100%)	22 人 (5.8%)	335 人 (87.9%)	24 人 (6.3%)
合計	4,519 人 (100%)	231 人 (5.1%)	3,889 人 (86.1%)	24 人 (8.8%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
合計	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

本学で開講されるすべての講義について、授業計画書（シラバス）を作成し、公表している。授業計画書（シラバス）の作成にあたっては、教員に「シラバス作成の手引き」を提示し、授業計画書（シラバス）の目的や役割を説明している。また手引きでは、授業計画書（シラバス）に記載する到達目標や講義方法、成績評価の方法等の各項目について記載方法や記載例を示して説明を行っており、各教員は手引きに基づき授業計画書（シラバス）の作成を行っている。

また、授業計画書（シラバス）については、以下のスケジュールで作成し、大学ホームページにて公表している。

・11 月　　「シラバス作成の手引き」の提示
・12 月下旬　　授業担当者へ授業計画書（シラバス）作成依頼
・12 月下旬～3 月中旬　授業計画書（シラバス）の作成
・3 月中旬　　授業計画書（シラバス）の公表

授業計画表の公表：
大学ホームページにて公表
https://capella.ws.ryukoku.ac.jp/RSW/CNoSSO.do

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

すべての学部において、以下の成績評価方法と成績評価の基準を履修要項にて示した上で、授業科目における学修成果の評価を厳格かつ適正に行っている。

１．成績評価の方法

成績評価は、主に次の 4 種類の方法で行っており、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価している。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められており、その内容はシラバスに明示している。

① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

２．成績評価の基準

① 成績評価は、100 点を満点とし、60 点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とする。

② 一度合格点を得た科目（＝既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできない。

③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は 0 点とする。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合がある。

④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりである。

段階評価と評点
Ｓ(90～100 点)　Ａ(80～89 点)　Ｂ(70～79 点)　Ｃ(60～69 点)

上記の段階評価以外に、実習科目はＧ（合格）・Ｄ（不合格）で評価する場合がある。単位認定された科目の場合はＮ（認定）となる。

⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しない。

⑥ 学業成績表は、第 1 学期（前期）分を 9 月中旬、第 2 学期（後期）分を 3 月下旬に配付する。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
文学部	真宗学科	124 単位	(有)・無	
	仏教学科	124 単位	(有)・無	
	哲学科	124 単位	(有)・無	
	臨床心理学科	124 単位	(有)・無	
	歴史学科	124 単位	(有)・無	
	日本語日本文学科	124 単位	(有)・無	
	英語英米文学科	124 単位	(有)・無	
経済学部	現代経済学科	124 単位	(有)・無	
	国際経済学科	124 単位	(有)・無	

経営学部	経営学科	125 単位	(有)・無	
法学部	法律学科	124 単位	(有)・無	
社会学部	社会学科	124 単位	(有)・無	
	コミュニティ マネジメント学科	124 単位	(有)・無	
	現代福祉学科	124 単位	(有)・無	
政策学部	政策学科	124 単位	(有)・無	
国際学部	国際文化学科	124 単位	(有)・無	
	グローバル スタディーズ学科	124 単位	(有)・無	
農学部	植物生命科学科	124 単位	(有)・無	
	資源生物科学科	124 単位	(有)・無	
	食品栄養学科	124 単位	(有)・無	
	食料農業システム学科	124 単位	(有)・無	
先端理工学部	数理・情報科学課程	124 単位	(有)・無	
	知能情報メディア課程	124 単位	(有)・無	
	電子情報通信課程	124 単位	(有)・無	
	機械工学・ロボティクス 課程	124 単位	(有)・無	
	応用化学課程	124 単位	(有)・無	
	環境生態工学課程	124 単位	(有)・無	
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表
交通アクセス
https://www.ryukoku.ac.jp/about/campus_traffic/index.html
学内施設
https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/stu_facilities/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

a. 2021 年度以降入学生

学部名	学科名	授業料 （年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	真宗学科	761,000 円	260,000 円	0 円	
	仏教学科				
	哲学科				
	臨床心理学科				
	歴史学科 （文化遺産学専攻を除く）				
	日本語日本文学科				
	英語英米文学科				

経済学部	現代経済学科				
	国際経済学科				
経営学部	経営学科				
法学部	法律学科				
文学部	歴史学科 文化遺産学専攻	761,000 円	260,000 円	35,900 円	実験実習料・実習料
社会学部	社会学科				
	コミュニティマネジメント学科				
	現代福祉学科				
政策学部	政策学科	761,000 円	260,000 円	15,000 円	実習料
国際学部	国際文化学科	806,000 円	260,000 円	10,000 円	実習料
	グローバルスタディーズ学科	961,000 円	260,000 円	170,000 円	留学実習料
農学部	植物生命科学科	979,000 円	260,000 円	273,600 円	施設費、実験実習料
	資源生物科学科				
	食品栄養学科	979,000 円	260,000 円	373,600 円	施設費、実験実習料
	食料農業システム学科	979,000 円	260,000 円	35,900 円	実験実習料
先端理工学部	数理・情報科学課程	1,029,000 円	260,000 円	223,600 円	施設費、実験実習料
	知能情報メディア課程	1,029,000 円	260,000 円	273,600 円	施設費、実験実習料
	電子情報通信課程				
	機械工学・ロボティクス課程				
	応用化学課程				
	環境生態工学課程				

編入学者，転入学者及び再入学者は，当該年次に相当する授業料，実験実習料，実習料，留学実習料及び施設費とする。

b. 2019～2020 年度入学生

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	真宗学科	761,000 円	0 円	260,000 円	施設費
	仏教学科				
	哲学科				
	臨床心理学科				
	歴史学科 （文化遺産学専攻を除く）				
	日本語日本文学科				
	英語英米文学科				
経済学部	現代経済学科				
	国際経済学科				
経営学部	経営学科				
法学部	法律学科				
文学部	歴史学科	761,000 円	0 円	295,900 円	施設費、

	文化遺産学専攻				実験実習料・実習料
社会学部	社会学科				
	コミュニティマネジメント学科				
	現代福祉学科				
政策学部	政策学科	761,000 円	0 円	275,000 円	施設費、実習料
国際学部	国際文化学科	806,000 円	0 円	270,000 円	施設費、実習料
国際学部	グローバルスタディーズ学科	961,000 円	0 円	430,000 円	施設費、留学実習料
理工学部	数理情報学科	979,000 円	0 円	483,600 円	施設費、実験実習料
	情報メディア学科				
	電子情報学科				
	機械システム工学科				
	物質化学科				
	環境ソリューション工学科				
農学部	植物生命科学科	979,000 円	0 円	533,600 円	施設費、実験実習料
	資源生物科学科				
	食品栄養学科	979,000 円	0 円	633,600 円	施設費、実験実習料
	食料農業システム学科	979,000 円	0 円	295,900 円	施設費、実験実習料

編入学者，転入学者及び再入学者は，当該年次に相当する授業料，実験実習料，実習料，留学実習料及び施設費とする。

c. 2016～2018 年度入学生

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	真宗学科	761,000 円	0 円	260,000 円	施設費
	仏教学科				
	哲学科				
	臨床心理学科				
	歴史学科（文化遺産学専攻を除く）				
	日本語日本文学科				
	英語英米文学科				
経済学部	現代経済学科				
	国際経済学科				
経営学部	経営学科				
法学部	法律学科				
文学部	歴史学科文化遺産学専攻	761,000 円	0 円	295,900 円	施設費、実験実習料・実習料
社会学部	社会学科				
	コミュニティマネジメント学科				
	現代福祉学科				

政策学部	政策学科	761,000 円	0 円	275,000 円	施設費、実習料
国際学部	国際文化学科	776,000 円	0 円	260,000 円	施設費、実習料
	グローバルスタディーズ学科	931,000 円	0 円	420,000 円	施設費、留学実習料
理工学部	数理情報学科	979,000 円	0 円	483,600 円	施設費、実験実習料
	情報メディア学科				
	電子情報学科				
	機械システム工学科				
	物質化学科				
	環境ソリューション工学科				
農学部	植物生命科学科	949,000 円	0 円	523,600 円	施設費、実験実習料
	資源生物科学科				
	食品栄養学科	949,000 円	0 円	623,600 円	施設費、実験実習料
	食料農業システム学科	949,000 円	0 円	285,900 円	施設費、実験実習料

d. 2015 年度以前入学生

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	真宗学科	731,000 円	0 円	250,000 円	施設費
	仏教学科				
	哲学科				
	臨床心理学科				
	歴史学科				
	日本語日本文学科				
	英語英米文学科				
経済学部	現代経済学科				
	国際経済学科				
経営学部	経営学科				
法学部	法律学科				
政策学部	政策学科				
国際文化学部	国際文化学科				
国際学部	国際文化学科	776,000 円	0 円	250,000 円	施設費
	グローバルスタディーズ学科	931,000 円	0 円	380,000 円	施設費、留学実習料
理工学部	数理情報学科	949,000 円	0 円	473,600 円	施設費、実験実習料
	情報メディア学科				
	電子情報学科				
	機械システム工学科				
	物質化学科				
	環境ソリューション工学科				

社会学部	社会学科	731,000 円	0 円	285,900 円	施設費、実験実習料
	コミュニティマネジメント学科				
	臨床福祉学科				
	地域福祉学科				
農学部	植物生命科学科	949,000 円	0 円	523,600 円	施設費、実験実習料
	資源生物科学科				
	食品栄養学科	949,000 円	0 円	623,600 円	施設費、実験実習料
	食料農業システム学科	949,000 円	0 円	285,900 円	施設費、実験実習料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

学生の修学に係る支援については、「スチューデントコモンズ」「グローバルコモンズ」「ナレッジコモンズ」の 3 つの機能別コモンズで構成する「龍谷大学ラーニングコモンズ」において展開している。

「スチューデントコモンズ」は、学生の主体的な知的活動を可視化することによって周辺にいる様々な学生の参加度も増幅させることを目的とした学修空間であり、アカデミックスキルの向上や修得のため、コモンズチューターによるチュータリングを実施しており、学修支援拠点（窓口）としての機能を担っている。

「グローバルコモンズ」は、自律型言語学習支援施設、留学・奨学金情報に関する資料、各種語学試験や語学学習に関する様々な教材を備え、国際交流を推進する様々なプログラムを展開すると共に、留学経験者で構成する学生スタッフによる留学アドバイスを行っている。

「ナレッジコモンズ」は、図書館の豊富な学術情報を活用しながら、学生が主体的に「調べ、考え、書き、作る」知の空間として展開している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学的および体系的に取り組んでいる。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通した持続的な就業力が身につくように取り組んでいる。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to face の面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

保健管理センターにおいて、診療所及びこころの相談室を開設し、学生及び教職員の身体的・精神的な健康の保持・増進にかかる業務を所管している。
診療所では、予防に重点を置いた保健管理として、学生・教職員を対象に健康診断を実施し、健康状態の把握と病気の早期発見・早期治療に繋がるよう取り組む。
相談室の運用においては、特に修学上の困難を抱える学生を支援するため、こころの相談室と関連部署との連携強化と教育的配慮のあり方について検討し支援策の改善・充実を図るとともに、支援する学生スタッフの育成についても検討している。
なお、現在は、コロナ禍において不安を抱える学生への支援に重点をおき、部署横断的に相談体制の緊密化を図っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページおよび大学ポートレートにて公表
https://www.ryukoku.ac.jp/
http://up-j.shigaku.go.jp/school/category01/00000000504501000.html

備考 この用紙の大きさは，日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F126310107626
学校名	龍谷大学
設置者名	学校法人龍谷大学

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		1,378人	1,378人	1,473人
内訳	第Ⅰ区分	846人	841人	
	第Ⅱ区分	328人	351人	
	第Ⅲ区分	204人	186人	
家計急変による支援対象者（年間）				17人
合計（年間）				1,490人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	—		
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	12人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	—		
ＧＰＡ等が下位４分の１	236人		
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	236人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。